

# 「琉球・沖縄 2人展」

比嘉康雄 — 琉球の祭祀

東松照明 — チューインガムとチョコレートin沖縄



比嘉康雄 1994~95年 宮古島 狩俣



東松照明 1977年 沖縄

比嘉康雄は、琉球の祭祀を、深く広く掘り下げ、撮り続けてきた写真のトップ・ランナーである。康雄は、1995年の日記に「沖縄の文化の古層を掘り下げるからこそ、人間とは何かという普遍性に至るのだと、これも又ほとんどドンキホーテ的に純粋に思い込んでいることは確かである」と書いている。ところが、2000年、康雄は逝去した。享年61歳、トップ・ランナーの突然の死である。私は、日本の戦後史の特徴はアメリカニゼーション、と語ってきた。これまで、日本列島に点在する米軍基地を撮ってきたが、1969年に初めて渡沖、「沖縄に基地があるのではなく基地の中に沖縄がある」といわれた米軍基地を周辺の町を撮った。それから40年が過ぎたいま、国土の0.6%しかない小さな島に、日本列島に点在する米軍基地の75%が集中している。「基地の中に沖縄がある」様相は、ほとんど変わっていない。〔東松 照明〕

## 比嘉 康雄 (ひがやすお)

- 1938年 移民の子としてフィリピンに生まれる。
- 1946年 沖縄に引き揚げる。
- 1958年 コザ高校卒業後警察官となり写真を始める。
- 1968年 嘉手納警察署で勤務中、B52爆撃機が墜落炎上。これを転機に職を辞し、本格的に写真を志す。
- 1971年 東京写真専門学校卒業。写真展「生まれ島沖縄」(銀座ニコソサロン)開催。カメラ毎日に「生まれ島沖縄」を発表。
- 1973年 谷川健一氏と出会い宮古島「祖神祭」を見て衝撃を受け、ライフワークとして琉球弧の祭祀世界の記録を始める。
- 1975年 西銘シズ氏と出会い、以来久高島の年中祭祀を丹念に記録。
- 1976年 「おんな・神・まつり」で第13回太陽賞受賞。
- 1977年 那覇市西のラ・ポラーで、比嘉康雄×東松照明×平良孝七を囲む写真論議。
- 1979年 写真集「神々の島 沖縄久高島のまつり」刊行。
- 1981年 沖縄タイムス芸術選奨奨励賞受賞
- 1989年 「神々の古層」刊行開始、1993年全12巻完成。同年日本写真協会年度賞受賞。
- 1991年 明治学院大学非常勤講師となる。
- 2000年 5月13日逝去。享年61歳。「日本人の魂の源郷 沖縄久高島」刊行、遺作となる。

※比嘉康雄回顧展「光と風と神々の世界」(那覇市民ギャラリー)のカタログより

## 東松 照明 (とうまつしょうめい)

- 1930年 愛知県名古屋生まれ。
- 1954年 愛知大学卒業後、上京し岩波写真文庫のスタッフとなる。
- 1956年 フリーランスとなる。
- 1958年 第1回日本写真批評家協会新人賞受賞。
- 1959年 奈良原一高、佐藤明、細江英公、川田喜久治、丹野章らとセルフエージェンシーVIVOを結成。
- 1966年 写真集「(11時02分)NAGASAKI」を刊行。
- 1972年 沖縄に移住。
- 1975年 写真集「太陽の鉛筆」を刊行。同書により第17回毎日芸術賞、第26回芸術選奨文部大臣賞を受賞。
- 1981年 「いま!! 東松照明の世界・展」全国巡回。
- 1998年 長崎に移住。
- 1999年 「日本列島クロニクル-東松照明の50年」(東京都写真美術館)
- 2000年 「長崎マンガラ」(長崎県立美術館)
- 2002年 「沖縄マンガラ」(浦添市美術館)
- 2003年 「京マンガラ」(京都国立近代美術館)
- 2006年 「愛知曼荼羅」(愛知県美術館)
- 2007年 「Tokyo曼荼羅」(東京都写真美術館)

※「南島・東松照明」展(ギャラリー新居)のカタログより